

参 考 手 本

日暮れて蒼山遠く

日 暮
蒼 山
遠 く

高 木 聖 雨 先 生

※これは規定課題ではありません。

参 考 手 本

幽禽聲自ずから樂し

幽 禽 聲 自 樂 矣

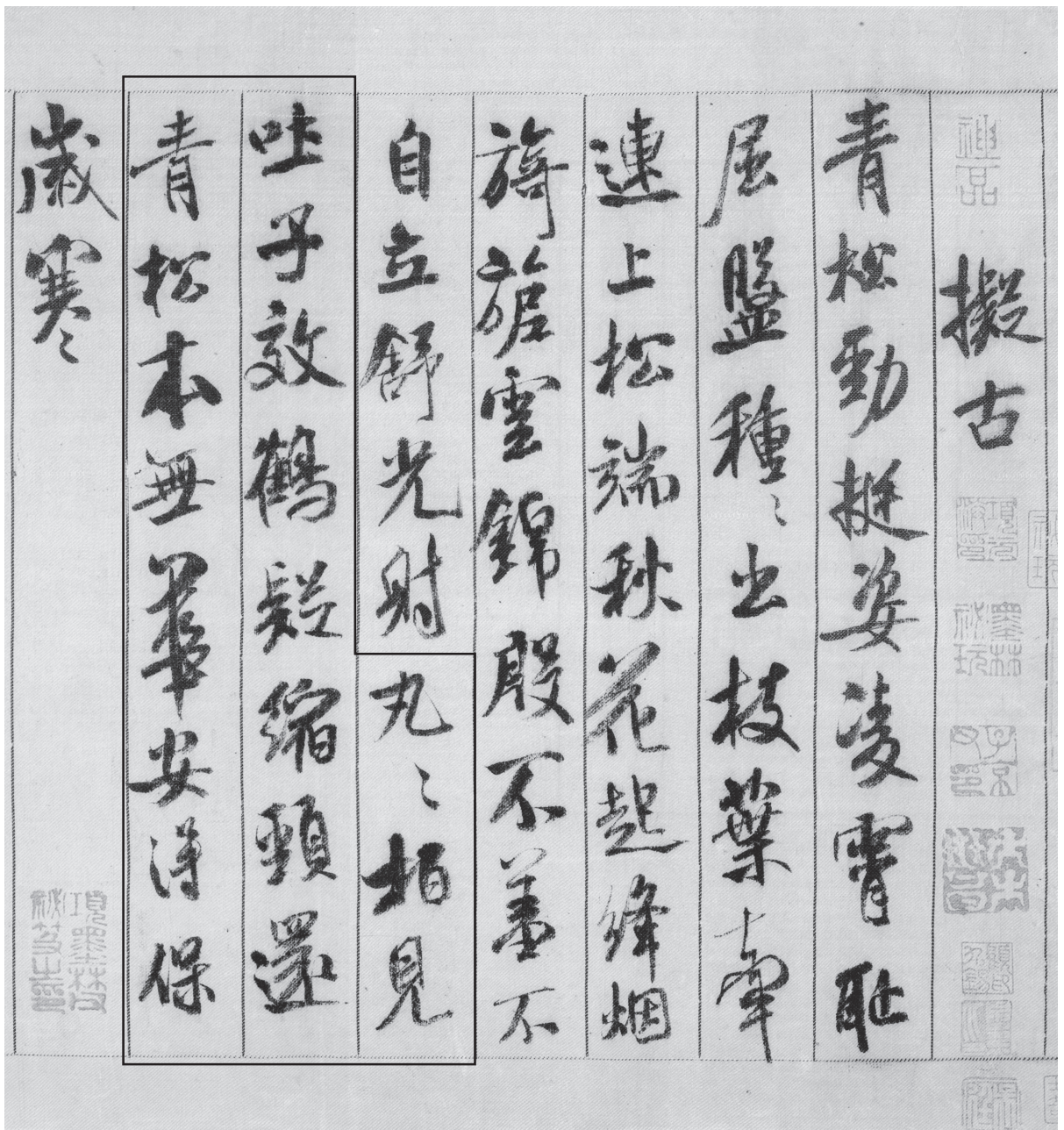
成 瀬 映 山 先 生

※これは規定課題ではありません。

条幅規定

A 部 (準五段以上)

題額本華詩



『蜀素帖』 米芾 (宋)

擬古

青松勁挺姿 凌霄恥屈盤
種種出枝葉 牽連上松端
秋花起絳烟 旖旎雲錦殷
不羞不自立 舒光射丸丸
柏見吐子效 鶴疑縮頸還
青松本無華 安得保歲寒

擬古

青松勁挺の姿
凌霄屈盤を恥づ

種々に枝葉を出だし
牽連して松端に上る
秋花絳烟より起こり

旖旎として雲錦殷なり

羞せず自立せざるを

光を舒べて射て丸々たり

柏は吐子の效を見

鶴は疑いて頸を縮めて還る

青松本と華無し

安んぞ歳寒を保つを得んや

【今月の課題】

「丸丸柏見吐子效鶴疑縮
頸還青松本無華安得保」

(20字)

「この課題を同月の条幅随意には出品出来ません」

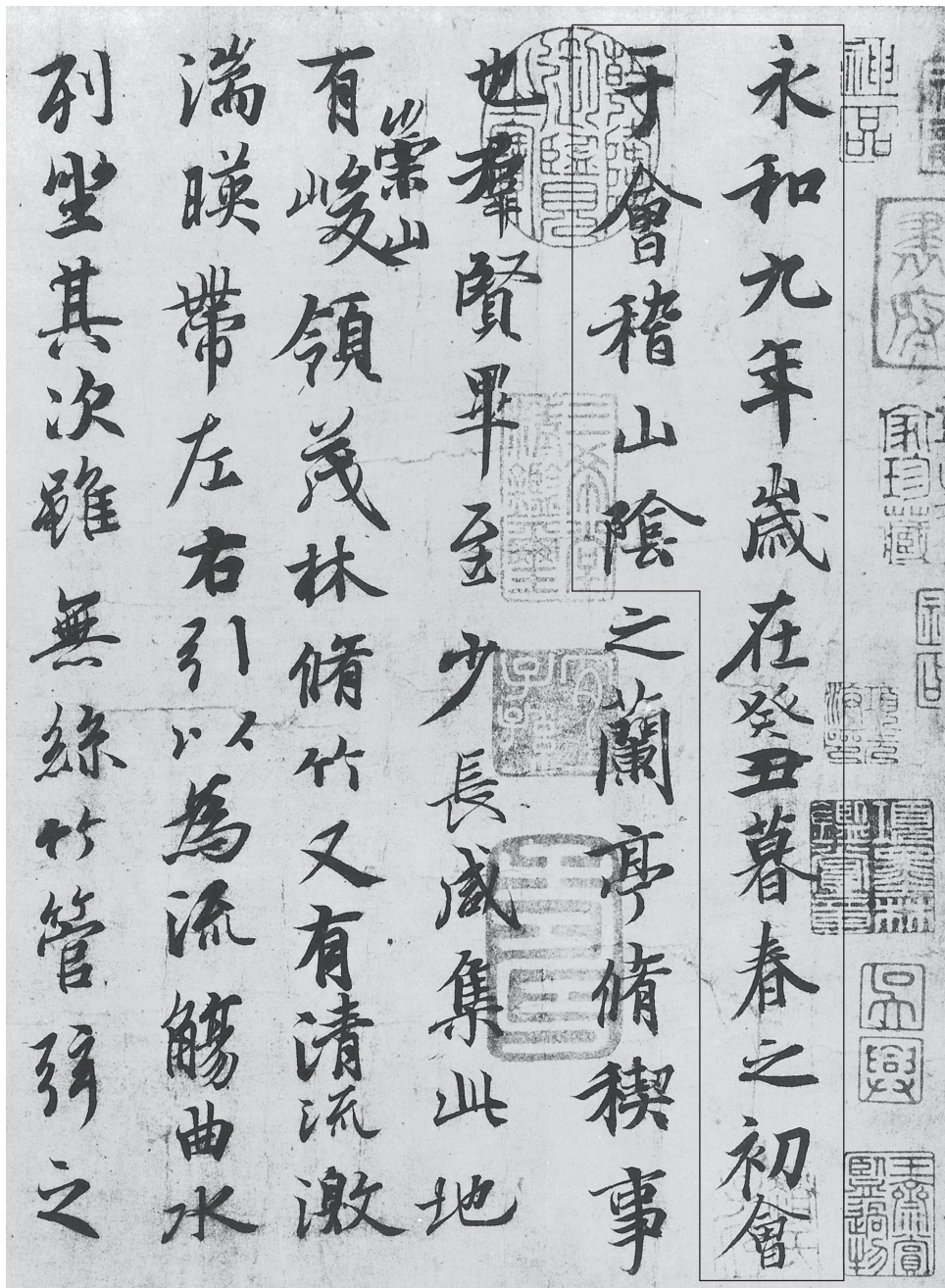
条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

(8月10日締切)

条 幅 規 定

B 部（四段以下）

『蘭亭叙』
王羲之（東晋）



永和九年 歲在癸丑 暮春之初 會于會稽山陰之蘭亭 脩禊事也 羣賢畢至 少長咸集 此地有崇山峻領 茂林脩竹 又有清流激湍 映帶左右 引以為流觴曲水 列坐其次 雖無絲竹管弦之盛

永和九年。歲は癸丑に在り。暮春の初め、會稽山陰の蘭亭に會す。禊事を脩むるなり。群賢畢く至り、少長咸な集まる。此の地崇山峻領、茂林脩竹有り、又た清流激湍有りて、左右に映帶す。引いて以て流觴曲水を為し、其の次に列坐す。絲竹管弦の盛無しと雖も、

【今月の課題】

「永和九年歲在癸丑暮春之初會于會稽山陰」

(18字)

〔この課題を同月の条幅随意には出品出来ません〕

条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

(8月10日締切)

曹全碑（漢・作者不詳）

都尉祖父鳳

半紙規定（一）



※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。

都尉たり祖父鳳は

九成宮醴泉銘（唐・欧陽詢）

昔以祥爲懼

半紙規定（二）



※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隸書

〔二級以下〕楷書

往昔に聞くのみならず、祥を以て懼れと為すは、

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕
（8月10日締切）

条 幅 参 考 手 本

曉發柳林戍遙城聞五鼓憶
與故人眠此時猶晤語

鈴木 惠 先生

曉發柳林戍 遙城聞五鼓 憶與故人眠 此時猶晤語

曉に柳林の戍を發し 遙城五鼓を聞く 憶ふ故人と眠り 此の時猶ほ晤語せし

主 幹 菅 野 翠 濤

孤山明社曰南湖採白蘋
芳嬌欲語杜鰲殺蕩舟人

綠水明秋日 南湖採白蘋 荷花嬌欲語 愁殺蕩舟人

綠水秋日明らかに 南湖に白蘋を採る 荷花嬌びて語らんと欲す 愁殺す舟を蕩かす人

条幅参考手本

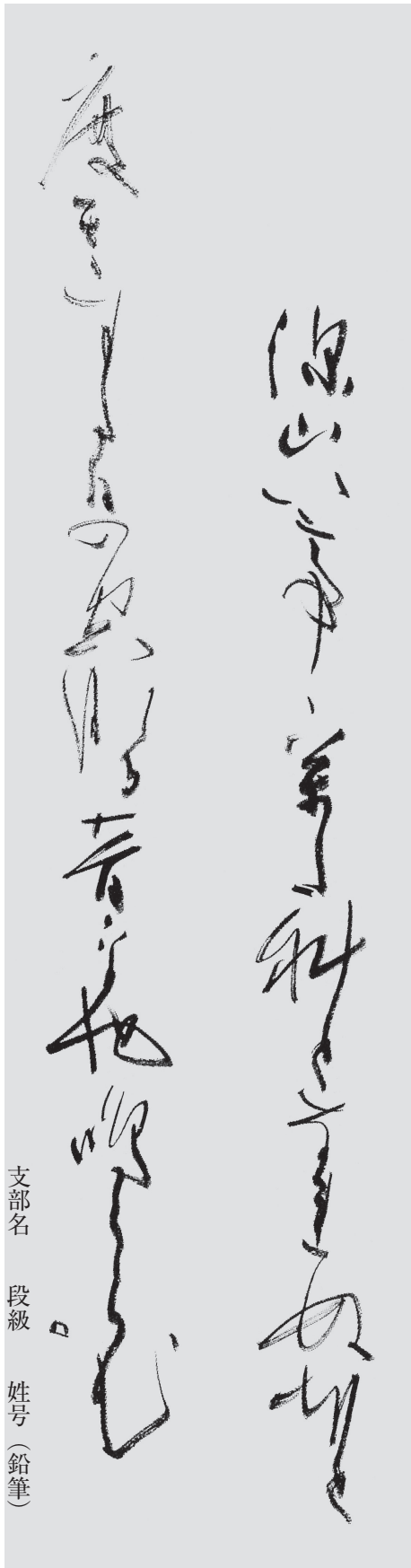


大井岳陵先生

晴天黯々雪 来送青春暮 無意似多情 千家万家去
晴天黯々雪 来り送る青春の暮 無意多情に似たり 千家万家に去る

浮乗清郷先生

条幅かな



支部名 段級 姓号 (鉛筆)

山出てまだ里馴れぬ郭公旅の空なる音をや鳴くらん (修理大夫顕季)
深 い帝、萬多斜と奈連 本と度きす多日 那 手

※かな部は支部名・段級・姓号を鉛筆で左下部に添え書きして下さい。

(8月10日締切)

半紙かな（１級以下）

雲海や鷹のまひるる嶺ひとつ（水原秋桜子）
うんかい たか の ま ひ る る りん ひとつ
たか 万 日 井 年 日

支部名 級 姓 号（鉛筆）

※ちらし文字変換は自由

雲海や鷹のまひるる嶺ひとつ
み 日 井 年 日

小林素水先生

岩たたく谷の水のみおとづれて夏に知られぬみ山べの里（前参議教長）
いわ たたく 谷の みおとづれて 夏に 知られぬ み山べの 里
農三 於 麗帝 二

※ちらし文字変換は自由

支部名 段 姓 号（鉛筆）

岩たたく谷の水のみおとづれて夏に知られぬみ山べの里
夜に知られぬみ山べの里

浮乗清郷先生

※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

（８月１０日締切）

実 用 文

※準三段以上…行書を草書に変換は自由

〈書風任意〉

古典を初期の段階で学んでおくべき
ものとして、楷書は九成宮醴泉銘、
行書は蘭亭叙、草書は書譜、隸
書は曹全碑などが挙げられる。
支部名 段 級 姓 号

朝 平 霞 山 先 生

(8月10日締切)

細字

高須翠雲書「五體昭和千字文」より P49

主幹 菅野 翠濤

蚪	蚪	蚪	蚪
蚪	蚪	蚪	蚪
羽	羽	羽	羽
化	化	化	化
豆	豆	豆	豆
蔓	蔓	蔓	蔓
錯	錯	錯	錯
綜	綜	綜	綜

支部

段級

姓

号

(名前は必ず楷書で書くこと)

※一級〜八級は草書まで。

初段以上は隷書まで。

※名前は楷書以外では違反になります。

17 cm (よこ) × 24 cm (たて)

豆 蚪

蔓 蚪

うすばかげろう。

錯

綜

いりまじってからみあう。

(8月10日締切)

硬筆（１級以下）

2行、楷書

幸福の便りというものは、待っている
時には決してこないものだ。
支部 級 姓 号

田 邊 翠 鶴 先 生

硬筆（初段以上）

3行、行草書

…窓辺…漂う…特別…。

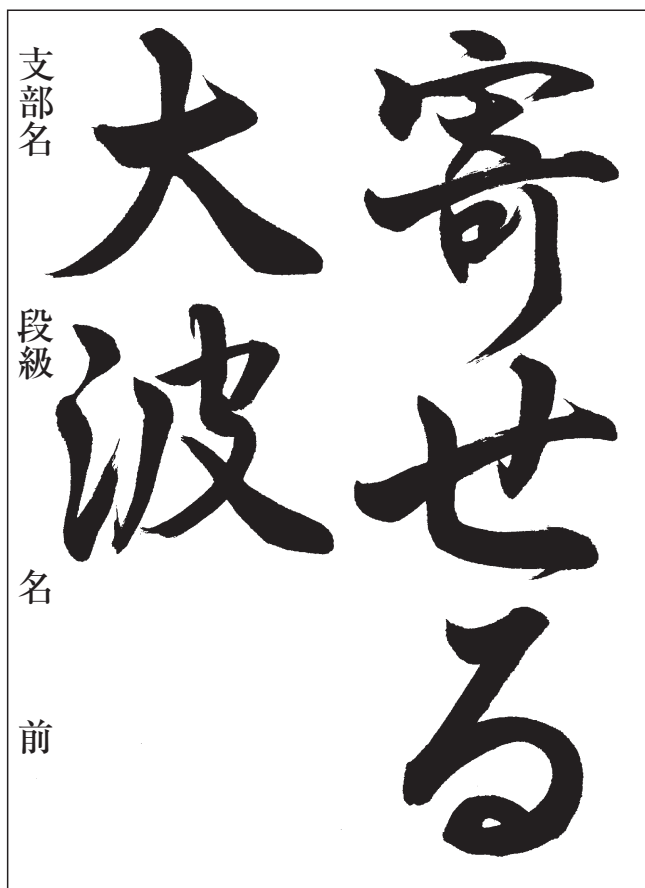
朝顔が開きはじめた夏に季節
の気配が漂う。目覚めの中に花が
ある日常は特別だ。
支部 級 姓 号

青 柳 江 雲 先 生

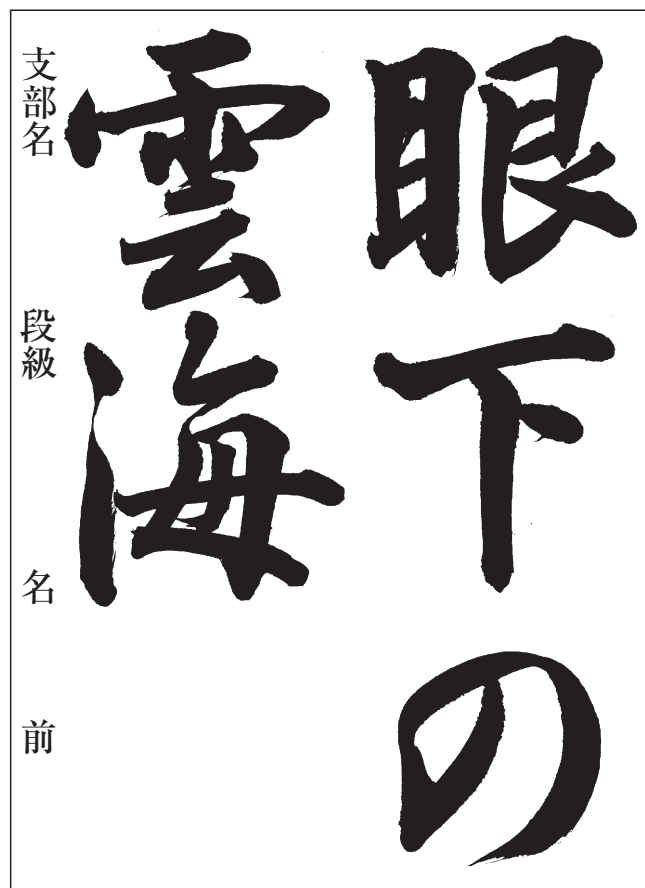
※本院定型用紙・たて半分に書く

（8月10日締切）

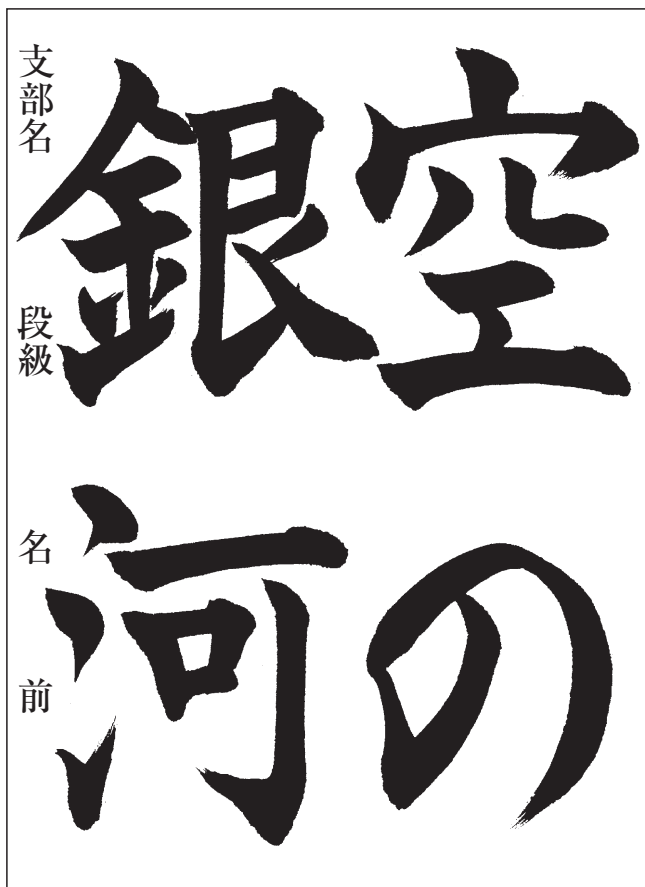
中2用



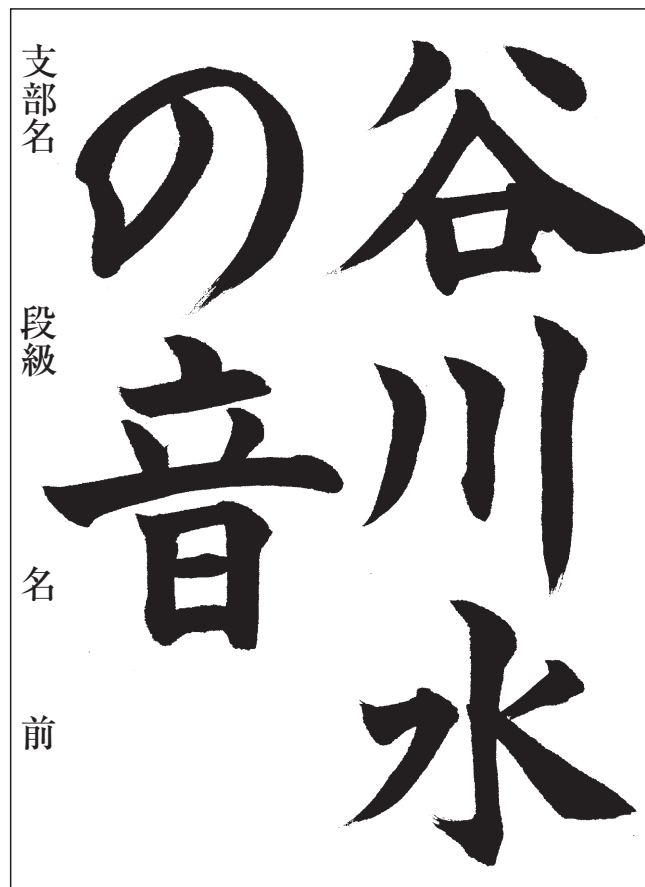
中3用



小6用

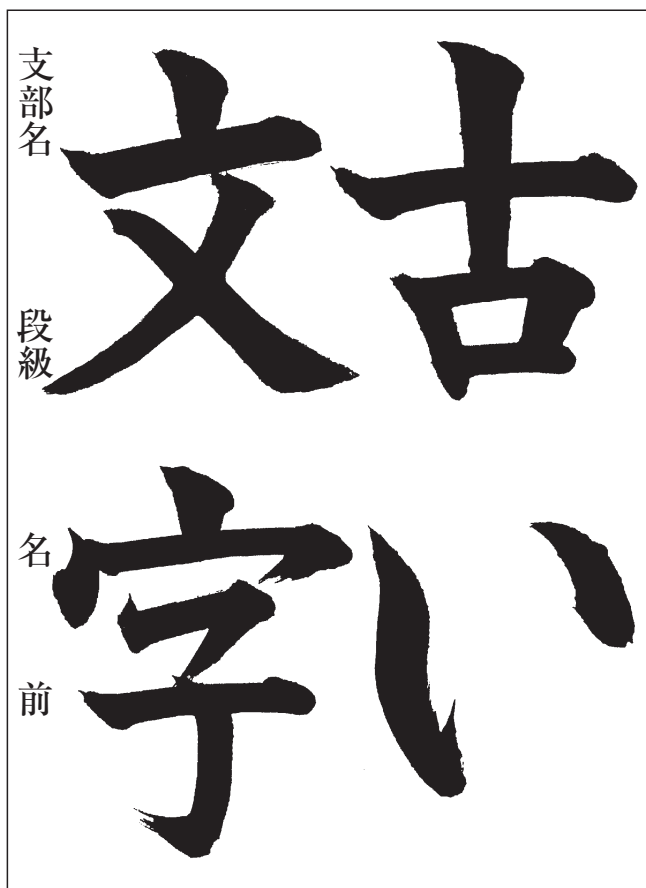


中1用



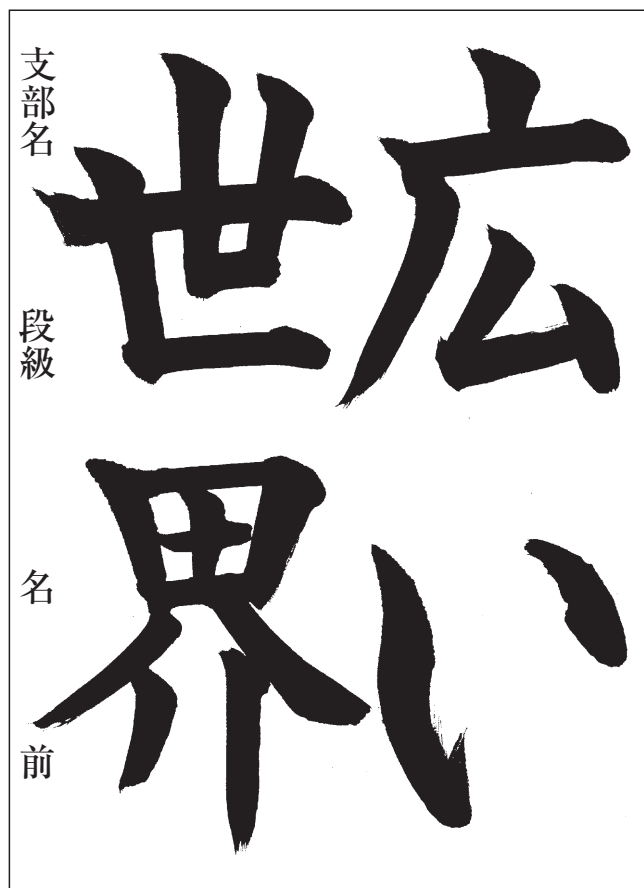
(8月10日締切)

小4用



大越三宗先生

小5用



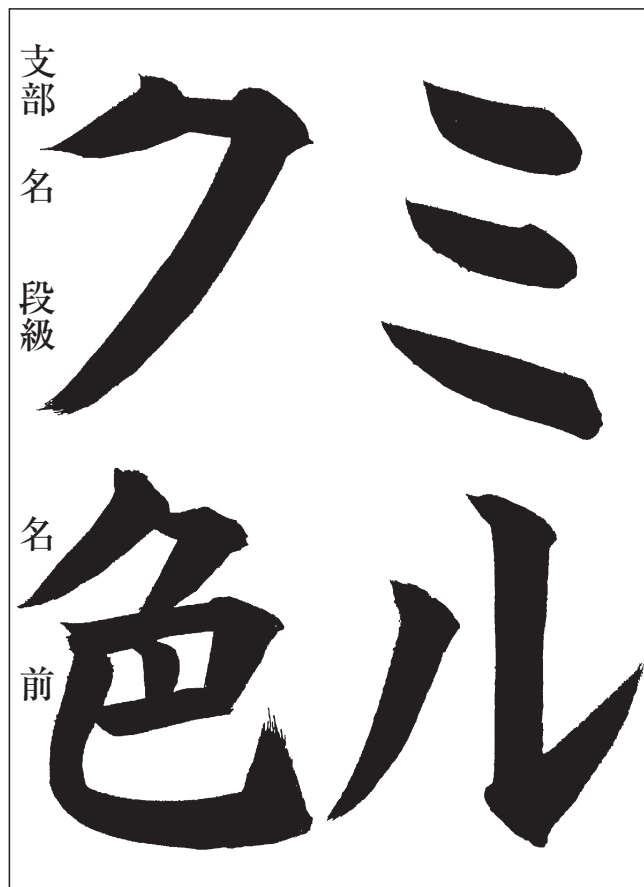
大越三宗先生

小2用



鈴木翡翠先生

小3用



鈴木翡翠先生

(8月10日締切)

中1

が、軽い運動で汗をかくの
最高の健康法だ。

中1～中3

中2

青い空に白い雲、夏は
海の恋しい季節だ。

青柳江

中3

夏は湿度が高く、蒸し
暑く、過ごすにくい。

雲先生

小1・幼年用

支部名

段級

名

前

そら

鈴木 恵 先生

小1・幼年

なつやすみ、えにっき
はなびうみ。

小1～小3

小2

なつ休み中に、ありの
かんさつをしたい。

鈴木 恵

小3

夏には、家ぞくでりよ
行に出かけます。

翠先生

小4

つゆが明け、太陽と
もに夏がやってくる。

小4～小6

小5

さあ夏だ。暑さに負け
ず、海で泳ぎます。

田邊 翠

小6

夏休みに、両親といっ
しょに富士登山をする。

鶴先生

(8月10日締切)

小学部小筆課題

支部名		主 幹
段 級		菅 野 翠 濤
名 前	海べの風 ながれ星	

中学部かな課題

支部名		船 久 保 棠 苑 先 生
段 級		
名 前	砂す あいて清水や 岩の間	

※半紙半分に書いて下さい。 (8月10日締切) ※半紙半分に書いて下さい。

9月10日締切課題予告

A部条幅規定 歳寒龜鶴年壽齊羽介所託殊種種是靈物相得忘

B部条幅規定 之蘭亭脩禊事也羣賢畢至少長咸集此地有

かな条幅規定 難波がた浦より遠になく鶴のよそにき、つ、恋やわたらむ (源 実朝)

半紙規定 (初段以上) 孝廉張掖属

半紙規定 (二級以下) 實取驗於當

半紙かな (初段以上) かすみだにやまちにしばしたちとまれすぎにしはるのかたみとも見む (相模)

半紙かな (一級以下) 鶯に清滝の水しづかなり (井上士朗)

実用文 流れを窮め山々の神をも呼ばひ谷々の鬼をも起し歌人の魂をも遠く返しつ、清しき声をうちあげて朽ちせぬ琴をかき鳴らせ

一般硬筆 (初段以上) 夕立の後の匂いが、地面に立ちのぼる。一瞬のリセットで冷えた空気に包まれて街が少し落ち着いた。

一般硬筆 (一級以下) ひらがなには全てに字源があつて、外形によつて区分されます。

9月10日締切学生部課題予告

中三毛筆 民芸品の店

中三硬筆 良寛は、禅僧、歌人、書家としても有名だ。

中二毛筆 西洋の学問

中二硬筆 開発が進むに従い、自然が破壊されていく。

中一毛筆 旅の思い出

中一硬筆 必要にせまられ、急な準備は間に合わない。

小六毛筆 秋風の音

小六硬筆 日曜の朝、食事を作る手伝いをしています。

小五毛筆 実りの秋

小五硬筆 夜に鳴く虫の声に、夏の終わりを感じます。

小四毛筆 波しぶき

小四硬筆 大空を鳥のように元気よく、とび回りたい。

小三毛筆 魚つり

小三硬筆 木かげに入ると、すずしい風がほおをなでる。

小二毛筆 プリン

小二硬筆 かぜに、白い花びらがゆれています。

小一毛筆 あお

小一硬筆 かえるのがつしようがきこえてきます。

中学部かな ふきの葉に ぽんと穴あく 暑さかな

小学部小筆 夏の夜に 花火大会

令和8年後期昇段試験要項

左記により令和8年後期昇段試験を施行いたします。

*作品締切 ・ 漢字 仮名部 9月8日(火)

・ 実用文 細字 硬筆部 9月24日(木)

◎漢字部 臨書課題

◆A部 六段・五段に応試(用紙・聯落 $\frac{1}{4}$ つき)

楷書 魏靈藏薛法紹造像記

P・20 参照

草書 懷素・自叙帖

P・20 参照

隸書 乙瑛碑

P・21 参照

◆B部 四段・三段に応試(用紙・謙慎サイズ40cm×160cm)

楷書 美人董氏墓誌銘

P・21 参照

行草書 趙孟頫・前後赤壁賦

P・22 参照

隸書 曹全碑

P・22 参照

◆C部 二段に応試(用紙・半切)

楷書 歐陽詢・九成宮醴泉銘

P・23 参照

行草書 王羲之・集字聖教序

P・23 参照

隸書 曹全碑

P・24 参照

◆D部 初段に応試(用紙・半切)

楷書 歐陽詢・九成宮醴泉銘

P・24 参照

行書 王羲之・蘭亭序

P・25 参照

※級から級への受験者はD部に応試のこと。

◎かな部

◆A部 六段・五段に応試

(イ)聯落 $\frac{1}{4}$ つき以内「たて」に揮毫

声あげて何を歌はむ枯草に小菊すこしが咲きまじる山

(ロ)全懷紙「たて」に揮毫

木の葉ちる時雨やまがふわが袖にもろき涙の色と見るまで

(ハ)古典臨書(揮毫部分は任意)

「小島切」を半紙半分相当、「たて」に書く

◆B部 四段・三段に応試

(イ)聯落 $\frac{1}{4}$ つき以内「たて」に揮毫

この山に秋たちてよりあらくさの草むらなかに螢ひかりぬ

(ロ)半切 $\frac{1}{2}$ 「たて」に揮毫

名月や池をめぐりて夜もすがら

(ハ)古典臨書(揮毫部分は任意)

「関戸本古今集」7～8行相当、「たて」に書く

◆C部 二段・初段に応試

(イ)半切「たて」に揮毫

咲きそめし宿しかはれば菊のはな色さへにこそうつろひにけれ

(ロ)古典臨書(揮毫部分は任意)

「高野切第一種」を4～5行相当、「たて」に書く

※級から級への受験者はC部に応試のこと。

出品の際、バーコードを必ず貼付の事。貼り忘れた場合は保留となります。

◎実用文

半紙タテ書き。落款は行書又は草書

◆A部 準三段以上に応試

『弘法筆を扱はずと言う諺で知られる空海は、遣唐使として中国に渡り、仏教や書道を学びながら筆の作り方も研究し、帰国して嵯峨天皇に献上しています。』

◆B部 二段以下に応試

『書道の作品においては、本文・落款を書いて最後に印を押して完成となるわけですから、印は非常に大切な意味を持っています。』

◎細字部

半紙横書き。落款は楷書・旧漢字使用。

(初段受験の方は楷行草の三体、準二段以上受験の方は楷行草隸の四体を揮毫して下さい。)

『古墨輕磨滿几香 硯池新浴照人光』(趙孟頫詩)

(古墨輕磨すれば 几に満ちて香しく 硯池新に浴し人を照して光る)

※級から級への受験者は草書までを揮毫のこと。

◎硬筆部

◆A部 六段・五段に応試

本院定型用紙に楷・行・草別葉に揮毫のこと。(書風は自由・落款は各体に書く。)

『落款は落成款識を略したもので、作品を書き上げて最後に、いつ、どこで、誰が、何を揮毫したかを書き、印を押し、作品を完成させることです。印のことは、落款印といいます。』

◆B部 四段〜準二段に応試

本院定型用紙に楷・行・草別葉に揮毫のこと。(書風は自由・落款は各体に書く。)
『端溪硯は中国広東省の西江という川で採掘され、此の地を端州と言ったことから称された名硯です。』

◆C部 初段に応試

本院定型用紙タテ半分に、楷・行別葉に揮毫のこと。(書風は自由・落款は各体に書く。)

『半紙には漢字用と仮名用があり、機械漉きと手漉きがあります。』

※級から級への受験者はC部に応試のこと。

※合格者には合格証を発行します。

※手本希望の方は手本代と返送用封筒(切手添付)を同封して直接希望の師範へ依頼して下さい。(手本の税の有無確認して下さい。)

※揮毫した師範は一回限り無料添削の義務あるものとし、二回以上添削希望の者はその師範の指示に従って下さい。

※漢字作品出品の際、提出作品を、楷・行草・隸の順に重ね、一番上の作品の左下に鉛筆で支部名・現在の段級・姓号を記入して下さい。(仮名作品はそれぞれに鉛筆で記入)

※バーコード出品券にも現在の段級を記入し、一枚だけ貼り付けて下さい。

出品の際、バーコードを必ず貼付の事。貼り忘れた場合は保留となります。

後期昇段試験課題 (六段・五段)

楷書 魏靈藏薛法紹造像記 (北魏・作者不詳)

魏靈藏河東薛法紹二人等
 裴光東照之資關興率翹頭之
 益敢磬家財造石像一

中国法書選 20 P 39 ~ 40

魏靈藏河東薛法紹二人等裴光東照之資關興率翹頭之益敢磬家財造石像一 (33字)

聯落 $\frac{1}{4}$ 繼に揮毫

草書 自叙帖 (唐・懷素)

懷素家長沙幼而事佛經禪之暇頗好筆翰然恨未能遠觀前人之奇迹
 所見甚淺遂擔 (33字)

中国法書選 43 P 2 ~ 3

懷素家長沙幼而事佛經禪之暇頗好筆翰然恨未能遠觀前人之奇迹
 所見甚淺遂擔 (33字)

聯落 $\frac{1}{4}$ 繼に揮毫

後期昇段試験課題

(四段・三段)

(六段・五段)

隸書 乙瑛碑（後漢・作者不詳）



中国法書選 4 P 40 ~ 42

若重規園乙君察舉守宅除吏孔子十九世園廉請置百石吏舍一人鮑君造作百石吏舍（33字）

聯落 $\frac{1}{4}$ 繼に揮毫

楷書 美人董氏墓誌銘（隋・作者不詳）

中国法書選 26 P 40



美人姓董汴州愜宜縣人也祖佛子齊涼州刺史敦仁（21字）

謙慎サイズに揮毫

後期昇段試験課題（四段・三段）

行草書 前後赤壁賦（元・趙孟頫）

徘徊於斗牛之間
白露橫江水
光接天縱一葦之所如

中国法書選 49 P 21

徘徊於斗牛之間白露橫江水光接天縱一葦之所如（21字）

謙慎サイズに揮毫

隸書 曹全碑（後漢・作者不詳）

巴郡胸忍令張掖居延都尉曾祖父述孝廉謁者金城

中国法書選 8 P 6

巴郡胸忍令張掖居延都尉曾祖父述孝廉謁者金城（21字）

謙慎サイズに揮毫

後期昇段試験課題（二段）

楷書 九成宮醴泉銘（唐・欧陽詢）

上善降祥上智斯悅流謙
潤下潺湲皎潔萍

中国法書選31 P 36

上善降祥上智斯悅流謙潤下潺湲皎潔萍（17字）

半切に揮毫

行草書 集字聖教序（東晋・王羲之）

炬之光火宅之朝降法雨之
澤於是百川異流同

中国法書選16 P 24

炬之光火宅之朝降法雨之澤於是百川異流同（19字）

半切に揮毫

後期昇段試験課題

(初 段)

(二 段)

隸書 曹全碑（後漢・作者不詳）

北地太守父瑋少貫名州郡不幸早世是以位

中国法書選 8 P 8

北地太守父瑋少貫名州郡不幸早世是以位（18字）

半切に揮毫

楷書 九成宮醴泉銘（唐・歐陽詢）

九成之宮此則隨之仁壽宮也冠山抗殿

中国法書選 31 P 5

九成之宮此則隨之仁壽宮也冠山抗殿（16字）

半切に揮毫

後期昇段試験課題（初段）

◎昇段試験 受験料

	六～準五段 受験	四～準三段 受験	二～準二段 受験	初段 受験
漢 字	4950円	4400円	3850円	3300円
か な	4950円	4400円	3850円	3300円
実用文	3850円	3300円	2750円	2200円
細 字	3850円	3300円	2750円	2200円
硬 筆	3850円	3300円	2750円	2200円

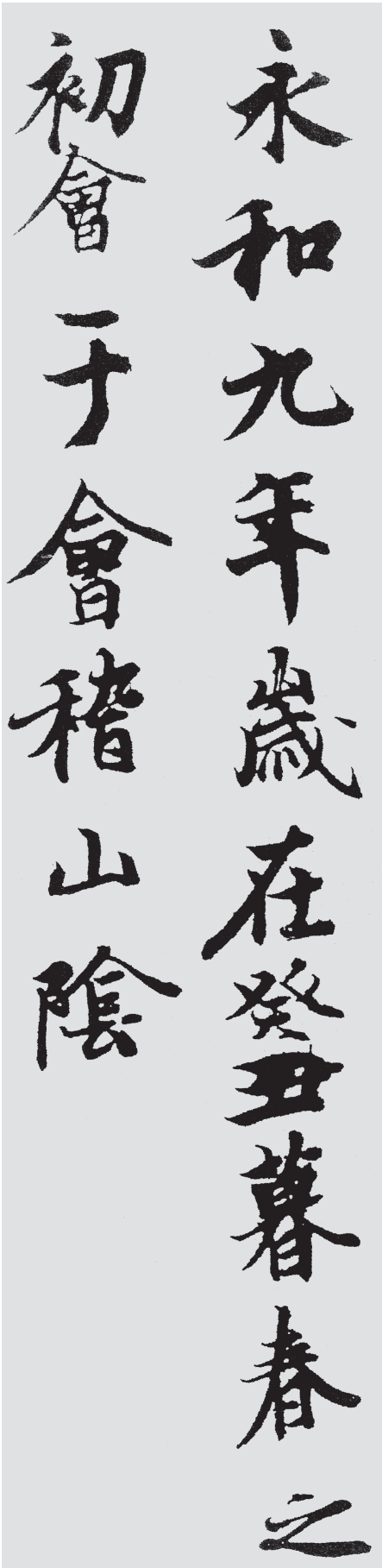
(税 込)

◎昇段試験 手本代（参考価格）

	六～準五段 受験	四～準三段 受験	二～準二段 受験	初段 受験
漢 字 (1書体)	5000円	3500円	2500円	2000円
か な (1セット)	8500円	7500円	6000円	6000円
実用文	2000円	2000円	1500円	1500円
細 字	2500円	2500円	2500円	2000円
硬 筆 (1セット)	7000円	6000円	6000円	3000円

(税 別)

永和九年歲在癸丑暮春之初會于會稽山陰（18字）



行書 蘭亭序（東晋・王羲之）

中国法書選15 P 14

半切に揮毫